

創立 1964年 6月16日
 認証 1964年10月19日
第2510地区 第11グループ



Hakodate North R.C.

2003~2004

函館北ロータークラブ会報



2003~2004年度
 R1会長
 リョウサツ、ロイヤル、ア
 国際ローターへのテー
『手を貸そう』

四つのテスト

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と反情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

北村 祐治 会長 テーマ『YES, I DO!』さあ、行動しよう!



1月21日 台同交流研修会 講師：佐藤 壽一氏

《第1953回例会》 第29号 1月28日(水)

本日のプログラム

「この頃の函館観光」

樽山観光バカド講師 森 幸子氏

★会長 北村 祐治(幹事) ★幹事 柴崎 晃

例会場：函館 国際ホテル 〒1140-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151
 例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 事務局：函館市大手町5-10 ニチロビル4F TEL23-3870

(148)

「Lend a Hand」
レスキュー隊
 2週間無料体験実施中
 ケヌキ「おいしい水」プロジェクト

ダズキン朋友
 本誌に毎月5名ほど
 2週間無料体験実施中
 〒040-0077 函館市至山町5-33
 20138-41-1199

(広告掲載：増山 正会員)

函館北ロータークラブは web(ホームページ)を公開しております。

http://www.hakodate-north.org/
 e-mail rota11@rotary@hakodate-north.org

2003 - 04年度 函館北ロータークラブの事業目標

1. 一般社団の健全化—— 創立50周年に向けて
2. 親睦「このと出合っ」—— 2003年9月21日創立記念式典・親睦会が最大の「親睦の日」
3. 奉仕—— *地域社会：市入交通安全車(1500名)の奉仕(記念事業)
 *ローター——による新世代への新冒険奉仕・奉仕精神を目標とする
 *国際奉仕：国際奉仕活動の「宇」を育てる
 *子供・家庭・職業奉仕委員会を通じて地域社会に貢献する
4. インターネット・コミュニティ委員会を設立し、当クラブ以外のクラブとの情報交換を促進し、合わせて、小学校の図書館支援のため、本報・机・本1500冊などの物品を寄贈する。
5. 反人の言動に好意を示し、反人の成長を願って、「宇」を貸しましょう。
 ——Lend a Hand and Take Action with our heartfelt care
 ——for Rotary's international vision!

◎出席委員会 森 秀樹 委員長

7~12月 平均出席率は82.65%でした。出席率向上に会員皆様のご協力よろしく
 お願い致します。

◎1月7日出席報告

会 員	39名	出席率対象会員		38名
		出席規定免除会員	出席率規定免除会員	
当日出席	25名	当日欠席	13名	
他クラブ出席	6名	出席合計	31名	
出席率				83.78%

・テレフォンサービス(例会移動案内)電話26 - 3170番

次回・2月4日
プログラム
会員卓話「お話しいろいろ」
 高野 彬 会員

1月21日の記録

◎司 会 北村 祐治 会長 ◎斉 唱 奉仕の理想、四つのテスト

◎会長報告 北村 祐治 会長

○江差R.C.から2月11日午後3時から江差町文化会館で「家庭内での親子のコミュニケーションのあり方」をテーマに講演並びにパネルディスカッションを開催致しますとのご案内がきております。

○麻丸上青果さんから 藤公武一会員葬儀のお礼状が届いております。

◎幹事報告 柴崎 晃 幹事

○函館五稜郭R.C.2月6日の例会は移動例会に変更です。

◎親睦活動委員会 崎野 浩志 委員

ニコニコBOOK投入報告

北村会長・柴崎幹事・斉藤委員・小笠原会員・松見会員・薮下会員・野田会員・松橋会員・千葉会員・増田会員……本日は3クラブ合同です。楽しくやりましょう。

◎国際ソロプチミスト函館・函館ボランティア・函館北ロータリークラブ

3クラブ合同研修交流会 (平成16年1月21日 函館国際ホテル)

●研修会 (講師紹介：松見修二親睦活動委員長)

講師：佐藤壽一先生 (函館市文化団体協議会事務局長)

演題：「よき友を得て よき師に恵まれて」

～多くの人との出会いを通して 真似て 学びたい～

<講演要旨>

我が人生において、師や友から得たもの、学んだことは非常に多くありました。後にあって「あの時教わったことを参考にできて良かった」と思うことがあります。そこで、「真似て、学びにしよう」という観点でお話しします。

1. 自分のまわりに、良き仲間をたくさん持とう、そして師となる人を見つけてよう

私は「良き友は、心の花の添木かな」を座右の銘としています。梅の若木は伸びるのがとても早く添木が必要です。人も若い時は勢いを自分の力だと過信してしまい、舞い上がる**ことがあります**。私もそうでした。これを叱責してくれたのが**友であり、師でした。人は一人では生きていけないとも教えられました。「自分の行動は謙実にやれることは一生懸命やる」ことを心がけています。**

2. 友、師と一緒に暮らすとき、人としての独自性と主体性を大切にしよう

長く学校教育に携わってききましたが、「あなたと一人の人間、ほくもー人の人間、立場は人ど人だよ」という思いで、一人の人間としての子どもの自立の方向を示すようにしました。校長になったときは先生方に「子どもの良い所をみつけて褒めてあげなさい。見えるのはほんの一部、氷山の一角です。子どもの潜在能力を見つけて、励ましてあげなさい」と。褒められると大人でも嬉しいですから、子どもだって嬉しい。嬉しいとその人に対して親しみを持っ、「褒める」ということは「認める」ことです。そうなる。「あの人のために頑張る」となります。「励ます」とは要求し、期待することです。多くの人は期待に導かれ、励まされ成長します。このことを踏まえ、私自身もそうありたいと取り組んでいます。

3. よき友、よき師から学び、自分の暮らした生かそう

このことは「笑顔のある、充実した生活を送ること」と押させています。娘から「お父さん、縦ジロがいいよ」といわれました。私は第一線から退いた人間、もういなか、という時期でした。その時にこういわれて、「そうだ、周りのために、何か役立つことがあればしよう」と思いました。結果として自分を磨くことになるのでありがたいことです。

この年齢になりましたが「ボクソツ車になるよりは、クラブソツカーでいたい」と思っています。そのために「自分でできることは自分でする」、「助けてやれるときは助ける、助けられるときは助けよう」、「絶えずチャレンジする」ことを大切に、友・師から得たことを自分の生活に実践し暮らして生かしたいと思っています

●交流会

・各クラブ会長挨拶

国際ソロプチミスト函館

函館ボランティア

函館北ロータリークラブ

・祝 杯 函館ボランティア

本間 明子副会長

・3クラブによる混声合唱

・バイオリン演奏

国際ソロプチミスト函館

嶋田 利子会員

・ビンゴゲーム

・各クラブソング

・乾 杯

函館北ロータリークラブ

南木 哲雄会長エレクト



3クラブ合同の混声合唱を披露

(会報担当者：渡部 二葉 委員)